

東京 IPO 特別コラム

2015年12月21日 Vol.10

2015年IPO市場で活躍した銘柄

2015年も残すところ10日となってきました。忘年会シーズン、クリスマスシーズンとなり皆様も多忙な日々を送っておられるものと拝察致します。そうした中でお届けする本コラムも今回を2015年の締めくくりとさせていただきます。次回は2016年1月4日の週に掲載を予定しております。

さて、12月のIPO社数は25日に上場予定だったグラフィコが上場中止となったことから全部で18社となり2015年のIPO企業数は92社となりました。IPO銘柄への関心をお持ちの皆様にとって今年はどのような年だったでしょうか。一気に92社が市場にデビューし、成長への期待が高まり多くの投資家の売買の対象となって、ひいては日本の株式市場に対して好循環を醸成してくれるという年となったのであれば意義深いことです。多くの個人投資家の皆様にセミナー等を通じてご愛顧頂いている東京IPOはそうしたIPO企業や成長指向の上場企業にとって投資家に情報伝達する道先案内の役割を多少でも果たしていける存在となっていくことが目標となります。

2月12日のKeeper技研(6036)から12月25日の一蔵(6186)まで92社のIPO企業にはそれぞれに物語がつくられ、また始まろうとしています。これらの共通項は2015年に上場したという点ですが、投資家の皆様とともに物語が更に進行して参ります。総じて大活躍した銘柄もあれば、意に反して株価が低迷してしまった銘柄、山あり谷ありながら後半にかけ頑張った銘柄などIPO後の株価や業績など実に変化に富む色模様となっています。今年は何と言っても日本郵政グループ3社の上場があり多くの株式投資のベテラン投資家のみならず、これまで株に興味のなかった投資家にも関心をもたらしました。前評判の良かった2月に上場したビッグデータ関連のALBERT(3906)が上場後に長期下落トレンドを見せるなど多くの割高感の高かったIPO銘柄が上場後の高値から下落する一方で、鶏卵の生産販売会社、ホクリョウ(1384)など業種が地味で上場時に関心が高まらなかった銘柄が案外強くなっているケースもあり、多くの投資家にとっては銘柄ごとの悩ましい展開に翻弄された格好となっているのではないかと推察されます。IoTに関連したビッグデータ企業として4月28日に上場したジグソー(3914)が年末まで比較的人気を集めているほか、年間を通じてハウズドゥ(3457)が堅調に推移、電子材料の中村超硬(6166)やコンタクトレンズメーカー、メニコン(7780)などはここに来て人気を高めているようです。一方では上場後高値からの長期下落傾向銘柄の事例は枚挙にいとまがありません。これらが2016年に捲土重来となりますか、業績動向などを踏まえて復活の動きとなるのか、皆様とともに見守って参りたいと存じます。

東京 IPO 特別コラム

直近では12月18日上場のアーケン（3927）が42万株の買いを残して初日に寄らず2日目の本日初値をつけるかと思われませんが、情報セキュリティ関連銘柄人気は2016年にも引き継がれそうな予感が致します。今回で第10回目となる本コラムは2016年の年末のIPO市場を十分に語ることなく締めくくりとなりますが、年明けにまたこの続きを語りたいと思います。それでは皆様、良いお年をお迎え下さい。

（東京 IPO コラムニスト 松尾範久）